アーバン・ストリート・シアター：５０基のパラソルとイベントが街の楽しみを演出

青 森 商 工 会 議 所

機関名	青森商工会議所	
所在地	青森県青森市橋本２－２－１７	
電話番号	０１７－７３４－１３１１	
地域概要	(1)管内人口　２９万８千人 （平成１３年１０月１日）	(2)管内商店街数　２１　商店街 （青森商店街連盟加入数）
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数　７　商店街 （うち法人格　５商店街）	(2)メンバー数　５２２　商店
	(3)空店舗率　１１．３　％ （４商店街について、平成１２年度調べ）	(4)大型店空き店舗　０　店
商店街の類型	1.超広域型商店街　2.広域型商店街　3.地域型商店街　4.近隣型商店街	

【事業名と実施年度】

平成１３年度　活性化対策事業　イベント（パラソルショップ等）
総事業費　１５，０１５千円

【事業実施内容】

１．背景

青森市の商店街は、モータリゼーションの進展にともなう消費購買行動の郊外化などにより、業績の低迷と空洞化が進んでいる。とりわけ、街の顔として地域文化や伝統を育み、人々の生活や娯楽、交流の場として機能してきた中心市街地における商店街では、平成 12 年度中に相次いで郊外に大型ショッピングセンターが開業することにより一層その厳しさが増している。

青森県中央部の位置と市内中心部

青森市では平成 10 年 11 に月策定した「青森市中心市街地活性化基本計画」において、再活性化の方針のひとつとして「まちの楽しみづくり」を掲げている。具体的には、平成 12 年 9 月には、駅前周辺の賑わいを広げ、つなげるための回遊導線を整備する「パサージュ形成」に向けて、青森市による「パサージュ広場整備」と「商業ベンチャー支援事業」が、平成 12 年 6 月 TMO として認定された青森商工会議所との共同で開始され、平成 13 年 1 月には市民待望の駅前第二地区再開発事業により官民による複合総合施設「アウガ」がオープンするなど、駅前周辺地区での賑わいが創出されつつある。

事業のメイン会場となった柳町商店街地区は、シンボルロード事業によって快適でゆとりある歩道空間となった柳町通りに位置し、市の基本計画では駅前地区と棲み分けて独自の集客するための「ストリートマーケット構想」が提案されていた。中心市街地への東部からのアプローチエリアである当該地区において、さらに高度にデザインされた空間を演出し、集客のためのイベントを実施することによって訪れる人を増やし、「まちの楽しみづくり」に貢献することと、高度化された街路や都市公園など、社会基盤施設の整備が進む中心市街地の特性を生かしながら、郊外大型店と差別化を図る市民参加型の先進的なイベント事業を実施し、集客力をすることが目標とされた。

２．事業内容

先進的事業「アーバン・ストリート・シアター」

〈実施期間〉　平成 13 年 8 月 10 日～9 月 30 日

〈場　　所〉　青森市柳町通り歩道部分

（1）パラソルロード

シンボルロード事業によって高質化された柳町通りの歩道部分に、約 50 基のパラソルを連続的に配置し、新しい街区イメージを演出する。パラソルのもとでは、「街づかい」という発想のもと、新しい街区のイメージを演出する。

① 生産・製造・流通などの業界団体や組合などと連携し、パラソルのもとで業界や個店・製品の PR や来街者へのサービス提供を実施した。

② 中心商店街に所属する個店や製品（一店逸品）の PR および来街者へのサービス提供を実施した。

③ 様々な創作活動の発表の場となるよう、市民公募により参加者を募って機会を提供した。

パラソルロード

④ 来街者の利便施設として自由に憩うことのできるスペースを提供した。

パラソルロード実績（８月・９月の土日に実施）

パラソル数	ブース数	出展者数	休憩所	その他
697	453	404	211	33

《主な出展品》

農産品・りんごジュース/シルクフラワー/輸入子供服/バルーン/ネイルアート/陶器/インテリア/女性用サンダル/古着・小物/ペットシャンプー/オートバイ/オリジナル食品/アクセサリー/フラッペ・エスニックケーキ/ボード・潜水具/手話・ヨーヨー/ピエロ化粧

（２）イベント

柳町通りをメイン会場に中心市街地エリアで集客と新たなネットワーク構築のきっかけとなるイベントを展開した。

アーバン・ストリート・ジャズ

① アーバン・ストリート・ジャズ：ジャズ愛好家にも評価されるレベルの高いジャズ演奏を提供することによって、駅前地区で形成されつつある若者をターゲットとするエリアと棲み分けた街区と商店街のサポーター作りをするために「ザ・ビッグフォー」のメンバーであった松本英彦ゆかりのメンバーによる追悼フェスティバルを松本英彦事務所の協力によって実施。（８月３回開催（一回は荒天のため中止））

② まちなかダンスフェスティバル：ヒップホップ、ジャズダンス、フォークダンスなどを実施（９月第 2～5 日曜日開催）

③ まちなか大道芸：国内外トップレベルのパフォーマーによる演技と市民による路上での展開により構成。(８月に計５日間開催)

【　効　果　】

① 本事業実施による集客の効果

歩行者通行者量調査によると事業実施以前より８６．７％の増加となり、事業実施が集客に結びついている。商店街関係者の消費者との接客に際し、２ヶ月間の長期でイベントを実施したことによって、市民からの当該地区に対する期待感が醸成されている。

② 中心商店街関係者や街区関係者等の意識の変化

当該地区は、過去の経緯から商業者や住民についても地区が一枚岩となれない事情があったものの、事業実施を通じて商業者間の連携の強化はもちろん、過去の経緯を解消することにも貢献した。また、商店街の出展の際には異業種による共同販促実験などが展開され、今後の商店街事業の新しい可能性が示された。

【課題・反省点】

① パラソルロード

・イベントに適応する出展者や出展形態が実験により明らかになったことから、今後の出展の条件や募集に際しては効果的な方法を検討する。
・商業者の実験ブースは、新製品開発や他業種との連携などに発展することから今後は戦略的に呼びかける。
・近隣児童の参加を得ることの波及効果が予想以上であった。
・2ヶ月間の定期的継続により、市民への認知は相当図られている。

大道芸人

・来街者の回遊性を促すべくブースレイアウトは検討するべきである。
・荒天時の対応は引き続き検討が必要である。

② イベント

（ジャズ）

・街区の特性(官庁街に隣接していること。街路が高質化されている。)から、また市民からの評価が高かったため、継続の仕組みを検討するべきである。
・荒天時の対応は引き続き検討が必要である。

（ダンス）

・街路の特性（広い歩道）を活かした街区独自のイベントとして継続していくべきである。

（大道芸）

・パフォーマーの資質に負う部分が大きいことから、パフォーマーは企画の目玉であるものの、地元関係者の来街者に対する仕掛けに力を入れるべきである。
・今後は、内容、予算、広報の方法等商店街を中心に検討がさらに必要であるが、市民ボランティアの巻き込みが重要である。

【　教　訓　】

地元商店街が事業実施にあたっての主役であることを徹底することが、成否および以降の事業継続の鍵となる。

【関連ＵＲＬ】

青森商工会議所　http://www.acci.or.jp/